契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－1

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	Ⅰ. 施工管理	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
	□	施工管理に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・・・・・・・・・・e
	□	施工管理に関して、監督職員が文書による改善指示を行った。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・・・・・・・・・・d
□	□	契約書第18条第1項第1号～5号に基づく設計図書の照査を行っていることが確認できる。
□	□	施工計画書が工事着手前に提出され、所定の項目が記載されているとともに、設計図書の内容及び現場条件を反映したものとなっていることが確認できる。
□	□	工事期間を通じて、施工計画書の記載内容と現場施工方法が一致していることが確認できる。
□	□	現場条件又は計画内容に変更が生じた場合は、その都度当該工事着手前に変更計画書を提出していることが確認できる。
□	□	工事材料の品質に影響がないよう工事材料を保管していることが確認できる。
□	□	立会確認の手続きを事前に行っていることが確認できる。
□	□	建設副産物の再利用等への取り組みを行っていることが確認できる。
□	□	施工体制台帳及び施工体系図を法令等に沿った内容で適確に整備していることが確認できる。
□	□	下請に対する引き取り(完成)検査を書面で実施していることが確認できる。
□	□	品質証明体制が確立され、品質証明員による関係書類、出来形、品質等の確認を工事全般にわたって行っていることが確認できる。
□	□	工事の関係書類を不足なく簡潔に整理していることが確認できる。
□	□	社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。
□	□	その他(理由:)

※評価値が90%程度以上・・・・・・・・・・・・・・・・・a
※評価値が80%～90%程度・・・・・・・・・・・・・・・b
※評価値が80%程度未満・・・・・・・・・・・・・・・・c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－2

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅰ. 出来形	機械設備工事・電気設備工事・電気通信工事・水道工事以外	出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評価対象項目」の4項目以上が該当する。	出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評価対象項目」の3項目以上が該当する。	出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評価対象項目」の3項目以上が該当する。	出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評価対象項目」の2項目以上が該当する。	出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a～b′に該当しない。	文書による改善指示を行った。	文書による改善指示に従わなかった。

対象	評価	[評価対象項目]
	□	出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・・・・・・・・e
	□	出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・・・・・・・・d
□	□	出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。
□	□	社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。
□	□	不可視部分の出来形が写真で確認できる。
□	□	写真管理基準の管理項目を満足している。
□	□	出来形管理基準が定められていない工種について、監督職員と協議の上で管理していることが確認できる。
□	□	その他(理由:)
		※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。
	□	ばらつきが50%程度以下
	□	ばらつきが80%程度以下
	□	ばらつきが80%程度超
	□	ばらつきで判断不可能

① 出来形の評定は、工事全般を通したものとする。
② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状寸法である。
③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づく形状寸法を確保する管理体系である。
④ 出来形管理項目がない場合は「c」評価とする。

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－3

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅰ. 出来形	機械設備工事	優れている	bよりも優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
	□	出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・・・・・・・・・e
	□	出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・・・・・・・・・d
□	□	据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫していることが確認できる。
□	□	設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内であり、出来形の確認ができる。
□	□	施工管理基準の撮影記録が撮影基準を満足し、出来形の確認ができる。
□	□	設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督職員と協議の上で管理していることが確認できる。
□	□	不可視部分の出来形が写真で確認できる。
□	□	塗装管理基準の塗膜厚管理が適切にまとめられており、出来形の確認ができる。
□	□	溶接管理基準の出来形管理が適切にまとめられており、出来形の確認ができる。
□	□	社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。
□	□	設計図書に定められている予備品に不足がないことが確認できる。
□	□	分解整備おける既設部品等の摩耗、損傷等について、整備前と整備後の老化状況及び回復状況が図表等に記録していることが確認できる。
□	□	その他(理由:)

※評価値が90%程度以上・・・・・・・・・・・・・・・・a
※評価値が80%～90%程度・・・・・・・・・・・・・a′
※評価値が70%～80%程度・・・・・・・・・・・・・b
※評価値が60%～70%程度・・・・・・・・・・・・・b′
※評価値が60%程度未満・・・・・・・・・・・・・・・c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－4

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅰ. 出来形	電気設備工事・電気通信工事・受変電設備工事	優れている	bよりも優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
	□	出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・・・・・・・・・e
	□	出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・・・・・・・・・d
□	□	据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫していることが確認できる。
□	□	機器等の測定(試験)結果が、その都度管理図表などに記録され、適切に管理していることが確認できる。
□	□	写真管理基準の管理項目を満足している。
□	□	不可視部分の出来形が写真で確認できる。
□	□	設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督職員と協議の上で管理していることが確認できる。
□	□	設備全般にわたり、形状・寸法の実測値が許容範囲内であることが確認ができる。
□	□	設備の据付、固定方法が、設計図書又は承諾図書のとおり施工していることが確認できる。
□	□	配管及び配線が設計図書又は承諾図書通り敷設していることが確認できる。
□	□	行先などを表示した名札が、ケーブルなどに分かり易く堅固に取り付けている。
□	□	配管及び配線の支持間隔や絶縁抵抗等について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。
□	□	その他(理由:)

※評価値が90%程度以上・・・・・・・・・・・・・・・・a
※評価値が80%～90%程度・・・・・・・・・・・・・a′
※評価値が70%～80%程度・・・・・・・・・・・・・b
※評価値が60%～70%程度・・・・・・・・・・・・・b′
※評価値が60%程度未満・・・・・・・・・・・・・・・・c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－5

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅰ. 出来形	水道工事	優れている	bよりも優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
	□	出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・・・・・・・・・e
	□	出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・・・・・・・・・d
□	□	出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。
□	□	測定、試験結果が、その都度管理図表などに記録され、適切に管理していることが確認できる。
□	□	写真管理基準の管理項目を満足している。
□	□	不可視部分の出来形が写真で確認できる。
□	□	設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督職員と協議の上で管理していることが確認できる。
□	□	出来形の形状、寸法の実測値が許容範囲内であることが確認できる。
□	□	水道工事標準仕様書の出来高管理基準で必要とされる管理項目を全て管理していることが確認できる。
□	□	施工図面、各種台帳等に工夫が見られる。
□	□	配管等について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。
□	□	その他(理由:)

※評価値が90%程度以上・・・・・・・・・・・・・・・・a
※評価値が80%～90%程度・・・・・・・・・・・・・a′
※評価値が70%～80%程度・・・・・・・・・・・・・b
※評価値が60%～70%程度・・・・・・・・・・・・・b′
※評価値が60%程度未満・・・・・・・・・・・・・・・c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－6

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	ｺﾝｸﾘｰﾄ構造物工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度・W/C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。
□	□	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
□	□	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。(寒中及び暑中コンクリート等を含む)
□	□	コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。
□	□	コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。
□	□	鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。
□	□	コンクリート打設までに、さび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。
□	□	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。
□	□	コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	スペーサーの品質及び個数が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	有害なクラックがない。
□	□	その他(理由:

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき　50%程度以下
□ ばらつき　80%程度以下
□ ばらつき　80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(　　%)＝(　　)評価数／(　　)評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ　コンクリート構造物工事

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
□	□	コンクリート構造物の表面状態が良い。
□	□	コンクリート構造物の通りが良い。
□	□	天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。
□	□	クラックが無い。
□	□	漏水が無い。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－7

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	土工事(切土、盛土、築堤等工事)	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。
□	□	段切りを設計図書に基づき行っていることが確認できる。
□	□	置換えのための掘削を行うにあたり、掘削面以下を乱さないように施工していることが確認できる。
□	□	締固めが設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	一層あたりのまき出し厚を管理していることが確認できる。
□	□	芝付け及び種子吹付を設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。
□	□	構造物周辺の締固めを設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。
□	□	土羽土の土質が設計図書を満足していることが確認できる。
□	□	CBR試験などの品質管理に必要な試験を行っていることが確認できる。
□	□	伐開除根作業が設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	その他(理由:
		※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。
	□	ばらつき 50%程度以下
	□	ばらつき 80%程度以下
	□	ばらつき 80%程度超
	□	ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ

盛土・築堤工事等

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	仕上げが良い。
□	□	通りが良い。
□	□	天端及び端部の仕上げが良い。
□	□	構造物へのすりつけなどが良い。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価4項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価1項目程度以下・・・・・・・d

切土工事

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	規定された勾配が確保されている。
□	□	切土法面の施工にあたって、法面の浮き石が除去されているなど、適切に施工されている。
□	□	法面勾配の変化部について、干渉部を設けるなど適切に施工されている。
□	□	滞水などによる施工面の損傷が発生しないよう処理が行われている。
□	□	関係構造物等との取り合いが設計図書を満足するよう施工されている。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－8

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	護岸・根固め・水制工事・渓流保全工(護岸)	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。
□	□	裏込材及び胴込めコンクリートの締固めを、空隙が生じないよう十分に行っていることが確認できる。
□	□	緑化ブロック、石積(張)、法枠、かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が、裏込材の吸出しが無いよう行っていることが確認できる。
□	□	石積(張)工において、大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、必要な強度及び水密性を確保していることが確認できる。
□	□	遮水シートが所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	植生工で、植生の種類、品質、配合及び養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	根固工、水制工、沈床工、捨石工等において、材料の連結及びかみ合わせが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	指定材料の品質が、証明書類で確認できる。
□	□	基礎工において、掘り過ぎが無く施工していることが確認できる。
□	□	コンクリートブロック等を損傷無く設置していることが確認できる。
□	□	施工にあたって、床堀箇所の湧水及び滞水等は、排除して施工していることが確認できる。
□	□	埋戻し材料について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	有害なクラックが無い。
□	□	その他(理由:

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき　50%程度以下
□ ばらつき　80%程度以下
□ ばらつき　80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(　　%)＝(　　)評価数／(　　)評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ　護岸・根固め・水制工事・渓流保全工(護岸)

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
□	□	通りが良い。
□	□	材料のかみ合わせがよく、クラックが無い。
□	□	天端及び端部の仕上げが良い。
□	□	既設構造物とのすりつけが良い。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価4項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価1項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－9

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	鋼橋工事(RC床版工事はｺﾝｸﾘｰﾄ構造物に準ずる)	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
		【工場製作関係】
□	□	鋼材の種別を、品質を証明する書類又は現物により照合していることが確認できる。
□	□	溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。
□	□	溶接作業にあたり、溶接材料の使用区分が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	溶接施工に係る施工計画書を提出していることが確認できる。
□	□	孔空けによって生じたまくれが削り取られているなど、きめ細やかに製作していることが確認できる。
□	□	欠陥部の発生が見られないことが確認できる。
□	□	塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。
□	□	素地調整を行う場合、第1種ケレン後4時間以内に金属前処理塗装を実施していることが確認できる。
□	□	塗料の空缶管理について、写真等で確実に空であることが確認できる。
□	□	塗料の品質が出荷証明書、塗料成績表により、製造年月日、ロット番号、色彩、数量が確認できる。
□	□	その他(理由: `
		【架設関係】
□	□	ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。
□	□	ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。
□	□	高力ボルトの締め付けを、中心から外側に向かって行っていることが確認できる。
□	□	高力ボルトの品質が、証明書類で確認できる。
□	□	支承の据付で、コンクリート面のチッピング及び仕上げ面に水切勾配がついていることが確認できる。
□	□	架設にあたって、部材の応力と変形等を十分検討していることが確認できる。
□	□	架設に用いる仮設備及び架設用機材について、品質、性能が確保できる規模及び強度を有して確認していることが確認できる。
□	□	現場塗装部のケレン及び膜厚管理を適切に行っていることが確認できる。
□	□	現場塗装において、温度、湿度、風速等の確認を行っていることが確認できる。
□	□	その他(理由: `

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき　50%程度以下
□ ばらつき　80%程度以下
□ ばらつき　80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(　　%)＝(　　)評価数／(　　)評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ　鋼橋工事

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
□	□	表面に補修箇所がない。
□	□	部材表面に傷及び錆がない。
□	□	溶接に均一性がある。
□	□	塗装に均一性がある。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価4項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価1項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－10

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	砂防構造物工事及び地すべり防止工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
		【共通】
□	□	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度・W／C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。
□	□	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
□	□	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のバイブレータの機種及び養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、定められた条件を満足していることが確認できる。(寒中及び暑中コンクリート等を含む)
□	□	コンクリートの圧縮強度を管理しており、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っている。
□	□	地山との取り合わせを適切に行っていることが確認できる。
□	□	鉄筋及び鋼材の品質が、証明書類で確認できる。
□	□	有害なクラックがない。
□	□	その他(理由:
		【砂防構造物工事・治山砂防構造物工事に適用】
□	□	コンクリート打設まで、さび、どろ、油等の有害物が、鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。
□	□	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。
□	□	アンカーの施工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。
□	□	ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。
□	□	その他(理由:

【地すべり対策工事（抑止杭・集水井戸工事を含む）】

☐ ☐ アンカーの施工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
☐ ☐ ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。
☐ ☐ ライナープレートと地山との隙間が少なくなるように施工していることが確認できる。
☐ ☐ 集・排水ボーリング工の方向及び角度が、適正となるように施工上の配慮をしていることが確認できる。
☐ ☐ その他（理由：
`

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

☐ ばらつき　50%程度以下
☐ ばらつき　80%程度以下
☐ ばらつき　80%程度超
☐ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 評価値（　　%）＝（　　）評価数／（　　）評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

Ⅲ．出来ばえ	砂防構造物工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	コンクリート構造物の表面状態が良い。
□	□	コンクリート構造物の通りが良い。
□	□	天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。
□	□	クラックが無い。
□	□	漏水が無い。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

Ⅲ．出来ばえ	地すべり防止工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	地山との取り合いが良い。
□	□	天端、端部の仕上げが良い。
□	□	施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの良さが伺える。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価3項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価1項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価項目なし・・・・・・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－11

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	舗装工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
		【路床・路盤工関係】
□	□	設計図書に定められた試験方法でCBR値を測定していることが確認できる。
□	□	路床及び路盤工のプルーフローリングを行っていることが確認できる。
□	□	路床及び路盤工の密度管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	路盤の安定処理は材料が均一になるよう施工していることが確認できる。
□	□	路盤の施工に先立って、路床面、下層路盤面の浮き石及び有害物を除去してから施工していることが確認できる。
□	□	路床盛土において、一層の仕上がり厚を20cm以下とし、各層ごとに締固めて施工していることが確認できる。
□	□	路床盛土において、構造物の隣接箇所や狭い箇所における締固めが、タンパ等の小型締固め機械により施工していることが確認できる。
□	□	その他(理由:
		【ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装工関係】
□	□	アスファルト混合物の品質が、配合設計及び試験練りの結果又は事前審査制度の証明書類により確認できる。
□	□	舗装工の施工にあたって、上層路盤面の浮き石などの有害物を除去していることが確認できる。
□	□	プラント出荷時、現場到着時、舗設時等において、アスファルト混合物の温度管理を記録していることが確認できる。
□	□	舗設後の交通解放が、定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	各層の継ぎ目の位置が、設計図書に定められた数値以上であることが確認できる。
□	□	縦継目及び横継目の位置、構造物との接合面の処理等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	アスファルト混合物の運搬及び舗設にあたって、気象条件を配慮していることが確認できる。
□	□	密度管理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	その他(理由:

【ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装工関係】 2／2ページ

□□ ｺﾝｸﾘｰﾄの配合試験及び試験練りを行っており、ｺﾝｸﾘｰﾄの品質（強度・W／C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。

□□ 舗装工の施工に先だって、上層路盤面の浮き石等の有害物を除去してから施工していることが確認できる。

□□ ｺﾝｸﾘｰﾄ受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。

□□ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。

□□ 運搬時間、打設方法及び養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。

□□ 材料が分離しないようコンクリートを敷均していることが確認できる。

□□ チェアー及びタイバーを損傷などが発生しないよう保管していることが確認できる。

□□ その他（理由：
`

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき 50%程度以下

□ ばらつき 80%程度以下

□ ばらつき 80%程度超

□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

(1)「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 評価値（ %）＝（ ）評価数／（ ）評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

Ⅲ．出来ばえ　舗装工事

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象 評価 ［評価対象項目］

□□ 舗装の平坦性が良い。

□□ 構造物の通りが良い。

□□ 端部処理が良い。

□□ 構造物へのすりつけ等が良い。

□□ 雨水処理が良い。

□□ 全体的な美観が良い

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－12

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	下水道工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
		【共通】
□	□	マンホール用品の規格、品質がミルシートで確認できる。
□	□	管渠の規格・品質がミルシートで確認できる。
□	□	設計図書に基づくｺﾝｸﾘｰﾄの配合試験及び試験練りが行われており、適切なｺﾝｸﾘｰﾄ規格(強度・w／c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材抑制等)が確認できる。
□	□	ｺﾝｸﾘｰﾄ打設時の必要な供試体を採取し、強度・ｽﾗﾝﾌﾟ・空気量等が確認できる。
□	□	ｺﾝｸﾘｰﾄ供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のﾊﾞｲﾌﾞﾚｰﾀの機種、養生方法等、適切に行っている。(寒中及び暑中ｺﾝｸﾘｰﾄ等を含む)
□	□	人孔工(二次製品)において接合部の取り合わせがよい。
□	□	舗装復旧工において、舗装材料の品質管理が適切にされている。
□	□	掘削残土等の処理が法令を遵守し適切に管理されている。
□	□	その他(理由:
		【開削工】
□	□	締固めを適切な条件で施工しており、管の周辺に空隙が生じていない。
□	□	管渠の接合状況が良好であることが確認できる。
□	□	地盤改良工の施工管理状況がデータで確認できる。
□	□	その他(理由:

【推進工】

□ □ 測量及び観測結果を毎日整理し、それに基づいた施工が行われていることが確認できる。
□ □ 常に切羽及び地表面の状態を観測して施工されていることが確認できる。
□ □ 推進作業等がデータで確認できる。
□ □ 地盤改良工の施工管理状況がデータで確認できる。
□ □ その他（理由：
`

【シールド工】

□ □ セグメントの規格・品質がミルシートで確認できる。
□ □ 溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。
□ □ 二次コンクリート打設前に、付着物除去のための充分な水洗清掃を行っていることが確認できる。
□ □ 常に切羽及び地表面の状態を観測して施工されていることが確認できる。
□ □ シールド推進作業等がデータで確認できる。
□ □ 裏込め注入状況がデータで確認できる。
□ □ 地盤改良工の施工管理状況がデータで確認できる。
□ □ その他（理由：
`

【処理場・ポンプ場等のうち土木工事】

□ □ 主たる工事（概ね2／3以上を占める工事）を対応する工種で評価する。
□ □ その他（理由：
`

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき　50%程度以下
□ ばらつき　80%程度以下
□ ばらつき　80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 評価値（　　%）＝（　　）評価数／（　　）評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

Ⅲ．出来ばえ	下水道工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	管渠の接合部の仕上げがきめ細かく施工されている。
□	□	管渠の通りが良い。
□	□	人孔壁（現場打ち）の肌がよい。
□	□	インバートの仕上げが平滑で通りがよい。
□	□	舗装（復旧）の平坦性がよく、人孔蓋等のすりつけがよい。
□	□	漏水、クラック等がない。

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－13

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	法面工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
		【共通】
□	□	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。(特に法枠工、コンクリート又はモルタル吹付工関係)
□	□	施工に際して、品質に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから施工していることが確認できる。
□	□	盛土の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないよう締固めを十分行っていることが確認できる。
□	□	雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。
□	□	その他(理由:
		【種子吹付工、客土吹付工、植生基材吹付工関係】
□	□	土壌試験の結果を施工に反映していることが確認できる。
□	□	ネットなどの境界に隙間が生じていないことが確認できる。
□	□	ネットなどが破損を生じていないことが確認できる。
□	□	吹付け厚さが均等であることが確認できる。
□	□	使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	施工時期が定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	その他(理由:

【ｺﾝｸﾘｰﾄ又はﾓﾙﾀﾙ吹付工関係】

- □ □ 使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ □ 金網の重ね幅が、10cm以上確保されていることが確認できる。
- □ □ 金網が破損を生じていないことが確認できる。
- □ □ 吸水性の吹付け面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。
- □ □ 吹付け厚さが均等であることが確認できる。
- □ □ 吹付け厚さに応じて2層以上に分割して施工していることが確認できる。
- □ □ 圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
- □ □ 不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。
- □ □ 法肩の吹付けにあたり、地山に沿って巻き込んで施工していることが確認できる。
- □ □ その他（理由：
  `

【現場打法枠工関係（プレキャスト法枠工含む）】

- □ □ 使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ □ アンカーを設計図書どおりの長さで施工していることが確認できる。
- □ □ 現場養生が設計図書の仕様を満足するように実施されていることが確認できる。
- □ □ 強度試験に使用したコンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。
- □ □ 枠内に空隙がないことが確認できる。
- □ □ 層間にはく離がないことが確認できる。
- □ □ 不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。
- □ □ その他（理由：
  `

【ロープネット工関係】

- □ □ アンカーの施工長さが確認できる。
- □ □ ロープ間の結束が確実にされている。
- □ □ 浮き石の処理がなされている。
- □ □ ロープネット材料の保管が適切である。
- □ □ その他（理由：
  `

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき 50%程度以下
□ ばらつき 80%程度以下
□ ばらつき 80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(　　%)＝(　　)評価数／(　　)評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ　法面工事

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
□	□	通りが良い。
□	□	植生、吹付等の状態が均一である。
□	□	端部処理が良い。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価3項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価1項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価項目なし・・・・・・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－14

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	基礎工工事及び地盤改良工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
		【杭関係(ｺﾝｸﾘｰﾄ・鋼管・鋼管井筒、場所打、深礎等)】
□	□	杭に損傷及び補修痕が無いことが確認できる。
□	□	既製杭の打止め管理の方法及び場所打杭の施工管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。
□	□	杭頭処理において、杭本体を損傷していないことが確認できる。
□	□	水平度、鉛直度等が、設計図書を満足していることが確認できる。
□	□	溶接の品質管理に関して、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	支持地盤に達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。
□	□	場所打杭について、トレミー管をコンクリート内に2m以上挿入して施工していることが確認できる。
□	□	掘削深度、排出土砂、孔内水位の変動及び安定液を用いる場合の孔内の安定液濃度並びに比重等が、設計図書を満足していることが確認できる。
□	□	配筋、スペーサーの配置及びコンクリート打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。
□	□	裏込材注入の圧力などが施工記録により確認できる。
□	□	強度確認、セメントミルクの比重管理などの品質に係わる事項の管理資料を整理していることが確認できる。
□	□	その他(理由:
		【地盤改良関係】
□	□	改良材のバッチ管理記録が整理され、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	セメントミルクの比重、スラリー噴出量、強度等の管理資料を整理していることが確認できる。
□	□	事前に土質試験を実施し、改良材の選定、必要添加量の設定等を行っていることが確認できる。
□	□	施工箇所が均一に改良されているとともに、十分な強度及び支持力を確保していることが確認できる。
□	□	その他(理由:

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき　50%程度以下
□ ばらつき　80%程度以下
□ ばらつき　80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(　　%)＝(　　)評価数／(　　)評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ　基礎工事(地盤改良等を含む)

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
□	□	土工関係の仕上げが良い。
□	□	通りが良い。
□	□	端部及び天端の仕上げが良い。
□	□	施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの良さが伺える。
		※地盤改良はc評価とする。

※ 評価3項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価1項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価項目なし・・・・・・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－15

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度・W／C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。
□	□	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
□	□	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。(寒中及び暑中コンクリート等を含む)
□	□	コンクリートの圧縮強度を管理して、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。
□	□	鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。
□	□	鉄筋の引張強度及び曲げ強度の試験値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	コンクリート打設までに、さび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。
□	□	圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。
□	□	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	スペーサーの品質及び個数が、設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	プレビーム桁のプレフレクション管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	使用する装置及び機器のキャリブレーションを事前に実施していることが確認できる。
□	□	PC鋼材の緊張及びグラウト注入管理値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	プレストレッシング時のコンクリート圧縮強度が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	コンクリート圧縮強度の確認は、構造物と同様な養生条件におかれた供試体を用いていることが確認できる。
□	□	有害なクラックがない。
		その他(理由:

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき　50%程度以下
□ ばらつき　80%程度以下
□ ばらつき　80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(　　%)＝(　　)評価数／(　　)評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ　コンクリート橋上部工事

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
□	□	コンクリート構造物の表面状態が良い。
□	□	コンクリート構造物の通りが良い。
□	□	天端及び端部の仕上げが良い。
□	□	支承部の仕上げが良い。
□	□	クラックが無い。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－16

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	塗装工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。
□	□	ケレンを入念に実施していることが確認できる。
□	□	天候状況の確認、気温及び湿度の測定を行い、塗装作業を行っていることが確認できる。
□	□	塗料を使用前に攪拌し、容器の塗料を均一な状態にしてから使用していることが確認できる。
□	□	鋼材表面及び被塗装面の汚れ、油類等を除去し塗装を行っていることが確認できる。
□	□	塗料の空缶管理について写真等で確実に空であることが確認できる。
□	□	塗り残し、ながれ、しわ等が無く塗装されていることが確認できる。
□	□	溶接部、ボルトの接合部分、構造の複雑な部分について、必要な塗膜厚を確保していることが確認できる。
□	□	塗料の品質が出荷証明書、塗料成績表により、製造年月日、ロット番号、色彩、数量が確認できる。
□	□	その他(理由:)
		※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。
	□	ばらつき 50%程度以下
	□	ばらつき 80%程度以下
	□	ばらつき 80%程度超
	□	ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

	Ⅲ. 出来ばえ	塗装工事（工場塗装を除く）	a	b	c	d	2／2ページ
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
☐	☐	塗装の均一性が良い。
☐	☐	細部まできめ細かな施工がされている。
☐	☐	補修箇所が無い。
☐	☐	ケレンの施工状況が良好である。
☐	☐	全体的な美観が良い。

※ 評価4項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価1項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－17

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	トンネル工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度・W／C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。
□	□	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
□	□	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設方法及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	吹付コンクリートの配合及びロックボルトの種別、規格が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	設計図書に定められた岩区分(支保工パターン含む)の境界を確認して施工を行っていることが確認できる。
□	□	坑内観察調査などについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	計測管理を日々行っており、その結果に基づいた施工を行っていることが確認できる。
□	□	金網の継ぎ目を15cm以上重ね合わせて施工していることが確認できる。
□	□	吹付コンクリートの施工にあたって、浮石等を除いた後に、吹付コンクリートの一層の厚さが15cm以下で地山と密着するよう施工していることが確認できる。
□	□	吹付コンクリートを打継ぎする場合は、吹付完了面を清掃した上、湿潤状態で施工していることが確認できる。
□	□	ロックボルトの定着長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	防水工に防水シートを使用する場合は、ロックボルト等の突起物にモルタルや保護マット等で防護対策を行っていることが確認できる。
□	□	逆巻きの場合において、側壁コンクリートとアーチコンクリートの打継目が同一線上で施工していないことが確認できる。
□	□	その他(理由:

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき　50%程度以下
□ ばらつき　80%程度以下
□ ばらつき　80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(　　%)＝(　　)評価数／(　　)評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ　トンネル工事

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
□	□	コンクリート構造物の表面状態が良い。
□	□	コンクリート構造物の通りが良い。
□	□	天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。
□	□	クラックが無い。
□	□	漏水が無い。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－18

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	植栽工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象 評価 [評価対象項目]

□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
上記該当項目があれば‥‥‥‥‥‥e

□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
上記該当項目があれば‥‥‥‥‥‥d

□ □ 活着が促されるよう管理していることが確認できる。
□ □ 樹木などに損傷、はちくずれ等が無いよう保護養生を行っていることが確認できる。
□ □ 樹木等の生育に害のある害虫等がいないことが確認できる。
□ □ 施工完了後、余剰枝の剪定、整形その他必要な手入れを行っていることが確認できる。
□ □ 肥料が直接樹木の根に触れないよう均一に施肥していることが確認できる。
□ □ 植生する樹木に応じて、余裕のある植穴を掘り、植穴底部を耕していることが確認できる。
□ □ 添木をぐらつきがないよう設置していることが確認できる。
□ □ 樹名板を視認しやすい場所に据付けていることが確認できる。
□ □ その他(理由:
`

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき 50%程度以下
□ ばらつき 80%程度以下
□ ばらつき 80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

	Ⅲ. 出来ばえ	植栽工事	a	b	c	d	
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	樹木の活着状況が良い。
□	□	支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。
□	□	支柱の取り付けが堅固である。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価3項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価1項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価項目なし・・・・・・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－19

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	防護柵(網)・標識・区画線等設置工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	防護柵設置要綱、視線誘導標設置基準、道路標識ハンドブック等の規定を満足していることが確認できる。
□	□	防護柵等の床堀りの仕上がり面において、地山の乱れや不陸が生じないように施工していることが確認できる。
□	□	防護柵等の基礎工の施工にあたって、無筋及び鉄筋コンクリートの規定を満足していることが確認できる。
□	□	防護柵等の支柱の施工にあたって、既設舗装面へ影響が無いよう施工していることが確認できる。
□	□	基礎設置箇所について地盤の地耐力を把握して、施工していることが確認できる。
□	□	防護柵の支柱の根入長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	ガードケーブルを支柱に取付ける場合、設計図書に定められた所定の張力を与えているのが確認できる。
□	□	ガードケーブルの端末支柱を土中に設置する場合、打設したコンクリートが設計図書に定められた強度以上であることが確認できる。
□	□	ペイント式(常温式)区画線に使用するシンナーの使用量が、10%以下であることが確認できる。
□	□	区画線の厚さが、見本等で設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	区画線施工後の昼間及び夜間の視認性が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	区画線の施工にあたって、設置路面の水分、泥、砂じん及びほこりを取り除いて行っていることが確認できる。
□	□	区画線を消去の場合、表示材(塗料)のみの除去となっており、路面への影響が最小限となっていることが確認できる。
□	□	プライマーの施工にあたって、路面に均等に塗布していることが確認できる。
□	□	区画線の材料が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	その他(理由:

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき　50%程度以下
□ ばらつき　80%程度以下
□ ばらつき　80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(　　%)＝(　　)評価数／(　　)評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ　防護柵(網)工事

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
□	□	通りが良い。
□	□	端部処理が良い。
□	□	部材表面に傷及び錆がない。
□	□	既設構造物等とのすりつけが良い。
□	□	きめ細やかに施工されている。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

Ⅲ. 出来ばえ	標識工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	設置位置に配慮がある。
□	□	標識板の向き並びに角度及び支柱の通りが良い。
□	□	標識板の支柱に変色がない。
□	□	支柱基礎が入念に埋め戻されている。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価4項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価1項目程度以下・・・・・・・d

Ⅲ. 出来ばえ	区画線工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	塗料の塗布が均一である。
□	□	視認性が良い。
□	□	接着状態が良い。
□	□	施工前の清掃が入念に実施されている。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価4項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価1項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－20

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	機械設備工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	材料、部品の品質照合の書類(現物照合)を整理し、品質の確認ができる。
□	□	設備の機能及び性能が、承諾図書のとおり確保され、品質の確認ができる。
□	□	設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出していることが確認できる。
□	□	機器の機能及び性能に係わる成績書が整理され、品質の確認ができる。
□	□	溶接管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。
□	□	塗装管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。
□	□	操作制御設備について、操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性にすぐれていることが確認できる。
□	□	操作制御設備の安全装置及び保護装置の機能・性能確認試験について、試験書類を整理し品質の確認ができる。
□	□	小配管、電気配線、配管が承諾図書のとおり敷設していることが確認できる。
□	□	設備の取扱説明書を工夫していることが確認できる。
□	□	完成図書(取扱説明書)に部品等の点検及び交換方法について、まとめていることが確認できる。
□	□	機器の配置が点検しやすいよう工夫していることが確認できる。
□	□	設備の構造や機器の配置が、交換頻度の高い部品等の交換作業を容易にできるよう工夫していることが確認できる。
□	□	二次コンクリートの配合試験及び試験練りを実施し、試験成績表にまとめていることが確認できる。
□	□	バルブ類の平時の状態を示すラベルなどが見やすい状態で表示していることが確認できる。
□	□	計器類に運転時の適用範囲を見やすく表示していることが確認できる。
□	□	回転部や高温部等の危険箇所に表示又は防護をしていることが確認できる。
□	□	構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。
□	□	現地状況を勘案し、施工方法等についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。
□	□	その他(理由:

※評価値が90%程度以上・・・・・・・・・・・・・・・a
※評価値が80%～90%程度・・・・・・・・・・・・・a´
※評価値が70%～80%程度・・・・・・・・・・・・・b
※評価値が60%～70%程度・・・・・・・・・・・・・b´
※評価値が60%程度未満・・・・・・・・・・・・・・c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 評価値（　　%）＝（　　）評価数／（　　）評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

Ⅲ. 出来ばえ　機械設備工事

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	主設備、関連設備及び操作制御設備が全体的に統制されており、運転操作性が良い。
□	□	きめ細かな施工がなされている。
□	□	土木構造物、既設設備等とのすりつけが良い。
□	□	溶接、塗装、組立等にあたって、細部に渡る配慮がなされている。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価4目程度以上・・・・・・・・・a
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価1項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－21

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	電気設備工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討が実施していることが確認できる。
□	□	材料・部品の品質照合の結果が品質証明書等(現物照合を含む)で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	機器の品質、機能及び性能が設計図書を満足して、成績書にまとめられていることが確認できる。
□	□	操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性に優れていることが確認できる。
□	□	ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合が無いことが確認できる。
□	□	設備の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	操作制御関係の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足しているとともに、必要な安全装置及び保護装置の作動が確認できる。
□	□	設備の総合性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	現場条件によって機器(製品)の機能及び性能が確認できない場合において、工場試験などで確認していることが確認できる。
□	□	設備全体についての取扱説明書を工夫し作成(修繕(改造・更新含む)の場合は、修正又は更新)していることが確認できる。
□	□	完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示していることが確認できる。
□	□	設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫していることが確認できる。
□	□	その他(理由: `

※評価値が90%程度以上・・・・・・・・・・・・・・・・a
※評価値が80%～90%程度・・・・・・・・・・・・・a′
※評価値が70%～80%程度・・・・・・・・・・・・・b
※評価値が60%～70%程度・・・・・・・・・・・・・b′
※評価値が60%程度未満・・・・・・・・・・・・・・・・c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

Ⅲ. 出来ばえ	電気設備工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	きめ細やかな施工がなされている。
□	□	公共物として、安全性の確保、環境及び維持管理等への配慮がなされている。
□	□	動作状態において、電気的及び機械的な異常が無く、総合的な機能及び運用性が良い。
□	□	ケーブル等の接続方法及び収納状況が適切である。
□	□	操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－22

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	電気通信工事・受変電設備工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	設計図書に定められている品質管理を実施していることが確認できる。
□	□	材料及び構成部品の品質及び形状について、設計図書等と適合が確認できる証明書等を整備していることが確認できる。
□	□	材料の品質照合の結果が、品質保証書等(現物照合を含む)で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	設備、機器の品質、機能及び性能が、成績等で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合が無いことが確認できる。
□	□	設備全体としての運転性能が所定の能力を満足していることが確認できる。
□	□	完成図書において、設備の機能並びに性能及び操作方法が容易に判別できる資料を整備していることが確認できる。
□	□	完成図書において、単体品の製造年月日及び製造者が判別できる資料を整備していることが確認できる。
□	□	設備全体及び各機器において、設計図書に規定した品質及び性能を工場試験記録により確認できる。
□	□	設備全体についての取扱説明書を工夫していることが確認できる。
□	□	完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示していることが確認できる。
□	□	設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫していることが確認できる。
□	□	その他(理由: `

※評価値が90%程度以上・・・・・・・・・・・・・・・・a
※評価値が80%～90%程度・・・・・・・・・・・・・a′
※評価値が70%～80%程度・・・・・・・・・・・・・b
※評価値が60%～70%程度・・・・・・・・・・・・・b′
※評価値が60%程度未満・・・・・・・・・・・・・・・・c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

Ⅲ. 出来ばえ	通信設備工事・受変電設備工事	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	主設備、関連設備等にきめ細かな施工がされている。
□	□	公共物として、安全性の確保、環境及び維持管理等への配慮がなされている。
□	□	動作状態において、電気的及び機械的な異常が無く、総合的な機能や運用性が良い。
□	□	当該設備及び関連設備が全体的に協調及び統制され、総合的な性能向上への配慮がなされている。
□	□	操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－23

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	二次製品構造物コンクリート二次製品工事(L型擁壁、ﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ、ﾌﾞﾛｯｸ積等)	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
		【共通】
□	□	仕様書で定められている品質管理が実施されている。
□	□	材料の品質規定証明書が整備されている。
□	□	JIS規格外品について、仕様書で規定する規格、品質を満足している。
□	□	基礎地盤の整形、清掃、湧き水処理等が適切に実施されていることが確認できる。
□	□	二次製品の保管、吊り込み、据え付け等に十分注意を払っていることが確認できる。
□	□	土留め、ウェルポイント等の仮設が設計図書に基づき適切に施工・管理されていることが確認できる。
□	□	その他(理由: `
□	□	【擁壁類(補強土擁壁は除く)】
□	□	胴込コンクリート、裏込材の充填が十分で空隙が生じてない。
□	□	基礎コンクリート及び天端等の調整コンクリートにクラック等の欠陥がない。
□	□	材料の連結又は、かみ合わせが適切である。
□	□	端部における地山とのすりつけが適切である。
□	□	丁張りを2重、3重に設けるなど、法勾配、裏込め材の厚さの確保のため細心の注意を払っている。
□	□	コンクリート板擁壁工の施工にあたり、ソイルコンクリートの配合、練混ぜ、打込み、締固め及び養生が適切に行われている。
□	□	その他(理由: `

【用排水施設】

- □ □ 位置、方向、高さ、勾配等について前後の施設又は地形になじみよく施工されている。
- □ □ 不等沈下防止に配慮して、基礎地盤の締固めが特に入念に行われている。
- □ □ 呑口、吐口、集水桝等の取り付けコンクリートにクラック等の欠陥がない。
- □ □ 施設の流末は浸食、滞留等が生じないよう処理されている。
- □ □ 不等沈下の発生がなく、基礎コンクリートの亀裂や継目部からの漏水も見られない。
- □ □ 継目部の目地モルタルが適切に施工されている。
- □ □ 製品周辺の盛土、埋戻土の施工にあたり、巻出し、転圧が適切に施工されている。
- □ □ 製品の継目部には隙間、ズレがなく、適切に施工されている。
- □ □ その他（理由：
  `

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

- □ ばらつき　50%程度以下
- □ ばらつき　80%程度以下
- □ ばらつき　80%程度超
- □ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

⑴「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 評価値（　　%）＝（　　）評価数／（　　）評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

Ⅲ．出来ばえ　二次製品構造物コンクリート二次製品工事(L型擁壁、ﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ、ﾌﾞﾛｯｸ積等)

対象　評価　［評価対象項目］

- □ □ 構造物の通りがよい。
- □ □ 材料の連結、かみ合わせがよい。
- □ □ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。
- □ □ クラックがない。
- □ □ 漏水がない。
- □ □ 土工の仕上げが良い。
- □ □ 全体的な美観が良い。
- □ □ その他（理由：
  `

※ 評価6項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－24

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	補強土壁工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	盛土材料の土質が適正である。
□	□	盛土の締固めを適切な条件(人力機械別、巻き出し厚、敷均し・転圧作業等)で施工されている。
□	□	プレキャスト製品・材料等の品質が工場管理資料より的確に確認できる。
□	□	現場条件に応じた排水対策が施工時を含め適切に講じられている。
□	□	盛土の締固め管理(密度等)が適切に実施されていることが確認できる。
□	□	その他(理由:
□	□	その他(理由:
□	□	その他(理由:
	□	※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。 ばらつき 50%程度以下
	□	ばらつき 80%程度以下
	□	ばらつき 80%程度超
	□	ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ	補強土壁工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	壁面材（コンクリート製品）の割れ、カケがない。
□	□	基礎上面の平坦性が良い。
□	□	天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。
□	□	壁面材の目違い、段差が少なく構造物の通りが良い。
□	□	全体的な美観が良い。
□	□	その他（理由：

※ 評価4項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価1項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－25

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	電線共同溝工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	指定材料の規格が、品質を証明する書類で確認できる。
□	□	管路の通過試験を行っており、試験結果から全箇所が導通していることが確認できる。
□	□	プラント出荷時、現場到着時、舗設時等において、アスファルト混合物の温度管理が記録していることが確認できる。
□	□	特殊部の施工基面の支持力が、均等となるようにかつ不陸が無いように仕上げていることが確認できる。
□	□	特殊部等の施工において、隣接する各ブロックに目違いによる段差及び蛇行等が無いよう敷設していることが確認できる。
□	□	埋戻しにおいて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	舗装の復旧等が適時行われ、路面の沈下や不陸が無く平坦性を確保していることが確認できる。
□	□	管枕及び埋設シートの設置及び土被りが、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	管設置において、それぞれの管の最小曲げ半径を満足していることが確認できる。
□	□	その他(理由:
		※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。
	□	ばらつき 50%程度以下
	□	ばらつき 80%程度以下
	□	ばらつき 80%程度超
	□	ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ．出来ばえ	電線共同溝工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	歩道及び車道の舗装（含、仮復旧舗装）の勾配が適切で、有害な段差が無く平坦性が確保されている。
□	□	プレキャストコンクリートブロックの蓋に、がたつきや不要な隙間が生じていない。
□	□	施工管理記録などから、不可視部分の出来映えの良さが伺える。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価3項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価1項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価項目なし・・・・・・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－26

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	【農政部】区画整理(ほ場整備)工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	表土扱い土が適切に管理されている。
□	□	道路・水路・畦畔等の締め固めが適切に施工されている。
□	□	構造物周辺の埋め戻し、締め固めが適切に施工されている。
□	□	法面に有害なクラックや損傷部がない。
□	□	排水路の深さ、勾配等が適切に施工されている。
□	□	田面等に耕作に有害な石礫等がない。
□	□	盛土高さが大きく、又は、水路埋立箇所など沈下が予想される箇所について特に入念に施工されている。
□	□	表土扱い土の厚さが確保されている。
□	□	敷砂利の厚さが確保されている。
□	□	コンクリート構造物に、きめ細やかな施工がうかがえる。
□	□	盛土の締固め管理(密度等)が適切に実施されていることが確認できる。
□	□	その他(理由:

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

2／2ページ

□ ばらつき　50%程度以下
□ ばらつき　80%程度以下
□ ばらつき　80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(　　%)＝(　　)評価数／(　　)評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ　【農政部】区画整理(ほ場整備)工事

a	b	c	d
優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
□	□	土工の仕上げが良い。
□	□	線的構造物の通りが良い。
□	□	付帯構造物等へのすりつけが良く、小構造物にきめ細やかな施工がなされている。
□	□	道路、水路等の路面や法面の仕上げが良い。
□	□	仕上げ整地が良い。
□	□	全体的な美観が良い。
□	□	その他(理由:

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－27

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	【農政部】暗渠排水工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象 評価 [評価対象項目]

□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e

□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d

□ □ 管路の接続が適切に施工されている。
□ □ 吸水渠、集水渠等の埋設深管理が適切に施工されている。
□ □ 軟弱地盤等で暗渠排水工の効果が阻害される恐れのある個所について、阻害防止の工夫が措置されている。
□ □ 被覆材が管路を中心に適切に施工されている。
□ □ 溝底部が凸凹蛇行のないように施工されている。
□ □ 水コウ及び集水渠等の埋め戻しが入念に施工されている。
□ □ その他(理由:
`

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき 50%程度以下
□ ばらつき 80%程度以下
□ ばらつき 80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ．出来ばえ	【農政部】暗渠排水工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	吸水渠及び集水渠等の通りが良い。
□	□	田面復旧の状態が良い。
□	□	畦畔及び排水路堤塘復旧の状態が良い。
□	□	排水路への接続にきめ細やかな施工がされている。
□	□	全体的な美観が良い。
□	□	その他（理由：

※ 評価4項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価1項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－28

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	【農政部】管水路工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象 評価 [評価対象項目]

□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e

□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d

□ □ 管材料は日本水道協会検査証明書等、品質規格証明書が整備されている。
□ □ 接合面が適切な処理を行っていることが確認できる。
□ □ 接合器材の管理、取扱いが適切に行っていることが確認できる。
□ □ 接合結果が記録され、確認できる。
□ □ 排水路の深さ、勾配等が適切に施工されている。
□ □ 管布設状況が記録され、整理されている。
□ □ 施工基面が平滑に仕上げられている。
□ □ 施工条件に適した方法で作業が行われている。
□ □ 管の下端、側部の締め固めが均等に実施されている。
□ □ 附属構造物にきめ細やかな施工がうかがえる。
□ □ その他(理由:
`

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき 50%程度以下
□ ばらつき 80%程度以下
□ ばらつき 80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ．出来ばえ	【農政部】管水路工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	接合状態が良い。
□	□	管内外面に補修痕等がない。
□	□	小構造物にも細心の注意が払われている。
□	□	管埋設位置が適当である。
□	□	施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さが伺える。
□	□	その他（理由：

※ 評価4項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価1項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－29

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	【農政部】フィルダム・ため池工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	基礎処理施工要領書及び盛り立て要領書に示された規定に従い適切に実施されている。
□	□	施工基面及び法面が平滑に仕上げられている。
□	□	湧水が適切に処理されている。
□	□	雨水による崩壊が起こらないように排水対策を実施している。
□	□	鉄筋の組立、継手部、かぶりは工事図面に示されたとおり施工している。
□	□	構造物と同様な養生条件におかれた供試体を用いて強度確認を行っている。
□	□	埋設計器が設置要領に従ってされており、正常な作動が確認できる。
□	□	刃金土や堤体の締め固めが適切に実施されていることが、工事書類等により確認できる。
□	□	グラウトエが適切に実施されていることが、工事書類等により確認できる。
□	□	その他付帯構造物は、設計図書に基づき適切に実施されている。
□	□	その他(理由: `
		※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。
	□	ばらつき 50%程度以下
	□	ばらつき 80%程度以下
	□	ばらつき 80%程度超
	□	ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

(1) 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ	【農政部】フィルダム・ため池工事	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	土工の仕上げが良い。
□	□	土工の通りが良い。
□	□	吹付け（植生、コンクリート等）の状態が均一である。
□	□	コンクリート構造物の肌が良い。
□	□	コンクリート構造物の通りが良い。
□	□	天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。
□	□	クラックがない。
□	□	漏水がない。
□	□	施設の通りが良い。（排水側溝、フェンス等）
□	□	全体的な美観が良い。
□	□	その他（理由：

※ 評価8項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価5項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－30

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	維持修繕工事(清掃工、除草工、付属物工、除雪、応急処理等) 修繕工事(橋脚補強、耐震補強、落橋防止等)	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	使用する材料の品質・形状等が適切であり、かつ現場において材料確認を適宜・的確に行っていることが確認できる。
□	□	構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。
□	□	監督職員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。
□	□	緊急的な作業において、迅速かつ適切に対応していることが確認できる。(維持工事)
□	□	施工後のメンテナンスに対する提言や修繕サイクル等を勘案した提案等を行っていることが確認できる。(修繕工事)
□	□	その他(理由:)
□	□	その他(理由:)
□	□	その他(理由:)

注 記載の4項目を必須の評価対象項目とし、この他に適宜項目を追加して評価するものとする。ただし評価対象項目は最大8項目とする。

※評価項目が6項目程度以上・・・・・・・a
※評価項目が5項目程度・・・・・・・・・・a′
※評価項目が4項目程度・・・・・・・・・・b
※評価項目が3項目程度・・・・・・・・・・b′
※評価項目が2項目程度以下・・・・・・・c

	Ⅲ. 出来ばえ	維持修繕工事	a	b	c	d	
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	小構造物等にも注意が払われている。
□	□	きめ細かな施工がなされている。
□	□	既設構造物とのすりつけが良い。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価3項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価1項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価項目なし・・・・・・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－31

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	取壊し工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	分別、再資源化を適切に実施している。
□	□	施工計画書に定められた計画により管理されている。
□	□	廃棄物の処理が適切である。
□	□	不可視部分の写真記録が適正である。
□	□	その他(理由:
□	□	その他(理由:
□	□	その他(理由:

※評価項目が6項目程度以上・・・・・・・a
※評価項目が5項目程度・・・・・・・・・・a′
※評価項目が4項目程度・・・・・・・・・・b
※評価項目が3項目程度・・・・・・・・・・b′
※評価項目が2項目程度以下・・・・・・・c

Ⅲ．出来ばえ	取壊し工事	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	きめ細やかな施工がされている。
□	□	既存部分や関連設備との調整がなされている。
□	□	取壊し後の整地等仕上がりの状態が良好である。
□	□	取壊し対象（リサイクル財、産業廃棄物等）の散乱等がなく処理が適切である。
□	□	その他（理由：

※ 評価3項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価1項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価項目なし・・・・・・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－32

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	仮設工工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	仮設材にそり、ゆがみ、傷がない。
□	□	仮設材の組立・設置が確実になされ、かつ点検も行われている。
□	□	周辺環境(騒音・振動・地盤変動等)に配慮した施工方法で実施している。
□	□	施工記録等により設計条件に適合した根入れ長で施工されていることが確認できる。
□	□	排水を考慮し、良好な床付け面を確保している。
□	□	その他(理由:
□	□	その他(理由:
□	□	その他(理由:

※評価項目が6項目程度以上・・・・・・・a
※評価項目が5項目程度・・・・・・・・・・a′
※評価項目が4項目程度・・・・・・・・・・b
※評価項目が3項目程度・・・・・・・・・・b′
※評価項目が2項目程度以下・・・・・・・c

Ⅲ. 出来ばえ	仮設工工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	鋼矢板・親杭の通りが良い。
□	□	覆工版にがたつきがない。
□	□	鋼矢板のかみ合わせ等不良部分がない。
□	□	全体的な美観が良い。
□	□	その他（理由：

※ 評価3項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価1項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価項目なし・・・・・・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－33

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	柵工、筋工、伏工工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	仕様書で定められている品質管理が実施されている。
□	□	材料の品質規定証明書が整備されている。
□	□	各工種の施工に適した法面整形、階段切付が行われており、障害となる根株、転石等が除去されている。
□	□	雨水等による崩落を防止するため排水対策が実施されている。
□	□	排水を考慮し、良好な床付け面を確保している。
□	□	端部における地山とのすりつけにきめ細かい注意がうかがえる。
□	□	植生の育成に配慮した丁寧な施工がなされている。
□	□	植栽木に破損や病害虫がなく、植栽、施肥の施工にあたり、苗木の育成に配慮した丁寧な施工がなされている。
□	□	各工種の特徴、要点を理解し、施工に創意工夫が見られる。
□	□	その他(理由:
		※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。
	□	ばらつき 50%程度以下
	□	ばらつき 80%程度以下
	□	ばらつき 80%程度超
	□	ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ. 出来ばえ	柵工、筋工、伏工工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	とおりがよい。
□	□	材料の連結、かみ合わせがよい。
□	□	構造物へのすりつけがよい。
□	□	全体的な美観が良い。
□	□	その他（理由： ）

※ 評価3項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価1項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価項目なし・・・・・・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－34

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	土工事(区画整理、農地造成)	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	伐開・除根作業により発生した伐開木、根株、枝条等が適切に処理されている。
□	□	仮設道路、仮排水路等は、設計図書により施工・管理されており、その出来高についても適切に管理され設計以上であることが確認できる。
□	□	雨水等による崩落、土砂の流亡等を防止するための排水対策が実施されている。
□	□	表土のはぎ取りにあたり、雑物等が混入しないよう注意すると共に、表土の基礎への混入や逸散の防止等に細心の注意を払って施工されている。
□	□	造成、整地等は設計図書等に基づき施工されており、仕上がりについては基準値を満足している。
□	□	道路の造成にあたり、横断勾配、土質等について設計図書等に基づき適切に施工されており、仕上がりについても基準値を満足している。
□	□	土壌改良に使用する肥料は法律に基づく保証票が確認でき、施工は仕様書等に基づき細心の注意を払っている。
□	□	畦畔、溝畔等は設計図書に基づき施工されており、仕上がりは規格値を満足している。
□	□	その他(理由: `
	□	※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。 ばらつき 50%程度以下
	□	ばらつき 80%程度以下
	□	ばらつき 80%程度超
	□	ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ．出来ばえ	土工事（区画整理、農地造成）	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	切盛の勾配が確保され、法面の仕上げがよい。
□	□	整地、均平の仕上げがよい。
□	□	畦畔、溝畔等の仕上げがよい。
□	□	構造物へのすりつけがよい。
□	□	植生、吹き付け等の状態が均一である。
□	□	排水路の通りが良い。
□	□	全体的な美観が良い。
□	□	その他（理由：
		`

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－35

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	林道土工工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象 評価 [評価対象項目]

□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e

□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d

□ □ 伐開・伐根作業により発生した伐開木、根株、枝条等が適切に処理されている。
□ □ 掘削面の土砂等は、乱さないように丁寧にすき取り、適切な場所に搬出している。
□ □ 基礎地盤が急勾配の斜面では、法面の崩壊や不等沈下の防止のため段切等適切に施工している。
□ □ 盛土中の暗渠・管等の構造物のある場合は偏圧の架からないよう施工している。
□ □ 路床、排水路等は設計図書により施工・管理されており、その出来形についても適切に確認できる。
□ □ 着手前に、崩壊、湧水等を調査確認し、適切な排水対策が実施されている。
□ □ 地すべり、崩壊等のある場合は、適切な予防法により工夫され施工されている。
□ □ 掘削等により、立木等に損傷を与えず、また飛散の防止等にも注意を払って施工されている。
□ □ 道路の横断勾配、幅員・基準高、土質等について設計図書等に基づき適切に施工管理されており仕上がりも基準値を満足している。
□ □ 仮設道路、排水施設について設計図書により施工・管理され、出来形も適切に管理されている。
□ □ その他(理由:
`

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。
□ ばらつき 50%程度以下
□ ばらつき 80%程度以下
□ ばらつき 80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ．出来ばえ	林道土工工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	切取勾配が確保され、法面の仕上げがよい。
□	□	盛土勾配が確保され、法面の仕上げがよい。
□	□	道路の形状（綿形、拡幅、縦・横断勾配、土側溝）がよい。
□	□	構造物へのすりつけ及び良質土砂等の流用状況がよい。
□	□	土工の仕上げがよい。
□	□	全体的な美観が良い。
□	□	残土処理等が適切である。
□	□	その他（理由：

`

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－36

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	木材木製品工事(木ダム、木橋、木土留工、木流路工等)	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	木材・木製品の品質が良好で(曲がり等がない)設計図書に基づき適切に施工されている。
□	□	仕様書で定められている品質管理が実施されている。
□	□	組み立て等のボルト等の締め付けが確認できる。
□	□	木材・木製品どうしの接続が良好で規定どおり施工されている。
□	□	部品・材料等の品質及び形状が設計図書等との適切性を確認できる。
□	□	木材・木製品による地山及び構造物との取り合いまたはすり付けは良好に施工されている。
□	□	その他(理由: `
	□	※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。 ばらつき 50%程度以下
	□	ばらつき 80%程度以下
	□	ばらつき 80%程度超
	□	ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

Ⅲ．出来ばえ	木材木製品工事（木ダム、木橋、木土留工、木流路工等）	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	通りがよく、バランスが保たれている。
□	□	金具等規格にあったものが使用され統一性がよい。
□	□	形状・寸法等が確保され統一性が良い。
□	□	コンクリート構造物へのすり付け等がよい。
□	□	地山への密着性が確保され仕上げがよい。
□	□	全体的な美観が良い。
□	□	その他（理由：

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－37

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	上記以外の工事(情報ボックス、浚渫工事等)又は合併工事<A:ばらつき評価不適切>	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	理由:
□	□	理由:
□	□	理由:
□	□	理由:
□	□	理由:
□	□	理由:
□	□	理由:
□	□	理由:

※評価値が90%程度以上・・・・・・・・・・・・・・・a
※評価値が80%～90%程度・・・・・・・・・・・・・a′
※評価値が70%～80%程度・・・・・・・・・・・・・b
※評価値が60%～70%程度・・・・・・・・・・・・・b′
※評価値が60%程度未満・・・・・・・・・・・・・・・c

	Ⅲ．出来ばえ	上記以外の工事又は合併工事	a	b	c	d	
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	理由：
□	□	理由：
□	□	理由：
□	□	理由：
□	□	理由：

評価4項目程度以上・・・・・・・a
評価3項目程度・・・・・・・・・・・b
評価2項目程度・・・・・・・・・・・c
評価1項目程度以下・・・・・・・d

※該当工種からの評価対象項目で評価を行う。ただし、評価対象項目は最大5項目とする。

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－38

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	上記以外の工事(情報ボックス、浚渫工事等)又は合併工事<B:ばらつき評価有>	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象 評価 [評価対象項目]

□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e

□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d

□ □ 理由:
□ □ 理由:
□ □ 理由:
□ □ 理由:
□ □ 理由:
□ □ 理由:
□ □ 理由:
□ □ 理由:

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。
□ ばらつき 50%程度以下
□ ばらつき 80%程度以下
□ ばらつき 80%程度超

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

	Ⅲ．出来ばえ	上記以外の工事又は合併工事	a	b	c	d	
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象 評価 ［評価対象項目］

□ □ 理由：
□ □ 理由：
□ □ 理由：
□ □ 理由：
□ □ 理由：

評価4項目程度以上・・・・・・・a
評価3項目程度・・・・・・・・・・・b
評価2項目程度・・・・・・・・・・・c
評価1項目程度以下・・・・・・・d

※該当工種からの評価対象項目で評価を行う。ただし、評価対象項目は最大5項目とする。

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－39

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	水道工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	設計図書に定められている品質管理を実施していることが確認できる。
□	□	材料及び構成部品の品質及び形状について、設計図書等と適合が確認できる証明書等を整備していることが確認できる。
□	□	材料の品質照合の結果が、品質保証書等で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	管、弁類の接合部の適切性が確認できる。
□	□	砕石、砂材等の品質及び充填状況が品質証明・管理資料で確認できる。
□	□	品質計画による品質管理記録が整備されている。
□	□	施工の品質及び形状が適切で良好な施工である。
□	□	施工時の試験及び記録が適切である。
□	□	施工の適切性が確認でき、通水状況、水圧確認等の記録が整備されている。
□	□	不可視部分の写真記録が適切である。
□	□	舗装復旧工において、舗装材料の品質管理が適切にされている。
□	□	掘削残土等の処理が法令を遵守し適切に管理されている。
□	□	その他(理由:)

※ 評価値が90%程度以上・・・・・・・a
※ 評価値が80%～90%程度・・・・・a′
※ 評価値が70%～80%程度・・・・・b
※ 評価値が60%～70%程度・・・・・b′
※ 評価値が60%程度未満・・・・・・・c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

Ⅲ. 出来ばえ	水道工事	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	主設備、関連設備等にきめ細かな施工がなされている。
□	□	消火栓、仕切弁等が桝・筐の中心に設置され、設置高さも計画通り施工されている。
□	□	配水管位置、深さが施工計画通り施工されている。
□	□	工事写真、施工管理記録等から不可視部分の出来栄えの良さが確認できる。
□	□	舗装の平坦性、端部処理がよい。
□	□	全体的な美観が良い

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－40

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	公園工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 〈判断基準参照〉[関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ばらつきの判断は 別紙 4 参照。					文書で指示を行った	修補指示を行った

対象 評価 [評価対象項目]

□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
上記該当項目があれば‥‥‥‥‥‥e

□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
上記該当項目があれば‥‥‥‥‥‥d

□ □ 仕様書で定められている品質管理が実施されている。
□ □ 材料の品質規格証明書が整備されている。
□ □ 製品の仮置き場の管理状況が適切である。
□ □ 製品の破損がなく、又、補修痕がない。
□ □ 継ぎ目の施工が入念に行われている。
□ □ 床堀りの仕上がり面において、地山の乱れや不陸が生じないよう施工している。
□ □ 基礎工の施工にあたって、無筋及び鉄筋コンクリートの規定を満足している。
□ □ 鋼材の地際部に防錆処理が行われている。
□ □ 基礎コンクリートが露出し、危険がない。
□ □ ボルト等のガタツキがなく、締めが確実に行われている。

※上記該当項目を評価した後に、以下のばらつきの評価をしてください。

□ ばらつき 50%程度以下
□ ばらつき 80%程度以下
□ ばらつき 80%程度超
□ ばらつきで判断不可能

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%程度以下	80%程度以下	80%程度超	
評価値	90%程度以上	a	a′	b	b
	75%～90%程度	a′	b	b′	b′
	60%～75%程度	b	b′	c	c
	60%程度未満	b′	c	c	c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

	Ⅲ．出来ばえ	公園工事	a	b	c	d	2／2ページ
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	天端及び施工の通りが適切に実施されている。
□	□	クラックの発生がない。
□	□	製品の据付が適切に実施されている。
□	□	製品表面に傷及び錆がない。
□	□	きめ細やかに施工されている。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－41

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	浚渫工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	構造物の劣化状況をよく把握して施工していることが確認できる。
□	□	監督職員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法について提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。
□	□	緊急的な作業において、迅速かつ適切に対応していることが確認できる。
□	□	施工計画書に定められた計画により管理されている。
□	□	廃棄物の処理が適正である。
□	□	不可視部分の写真記録が適正である。
□	□	その他(理由:)

※ 評価値が90%程度以上・・・・・・・a
※ 評価値が80%～90%程度・・・・・a′
※ 評価値が70%～80%程度・・・・・b
※ 評価値が60%～70%程度・・・・・b′
※ 評価値が60%程度未満・・・・・・・c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

考査項目	細別	工種	a	b	c	d
	Ⅲ. 出来ばえ	浚渫工事	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
□	□	水路又は管路内部等の清掃が適切に実施されている。
□	□	小構造物等にも注意が払われて清掃している。
□	□	路面の清掃が適切に実施されている。
□	□	きめ細やかに清掃されている。
□	□	その他(理由:)

※ 評価3項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・b
※ 評価1項目程度・・・・・・・・・・・c
※ 評価項目なし・・・・・・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－42

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	溝蓋架設工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。
		上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	使用する材料の品質・形状等が適切であり、かつ現場において材料確認を適宜・的確に行っていることが確認できる。
□	□	構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。
□	□	監督職員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造について提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。
□	□	緊急的な作業において、迅速かつ適切に対応していることが確認できる。
□	□	継ぎ目の施工が入念に行われている。
□	□	その他(理由:)

※ 評価項目が5項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価項目が4項目程度・・・・・・・・・・a′
※ 評価項目が3項目程度・・・・・・・・・・b
※ 評価項目が2項目程度・・・・・・・・・・b′
※ 評価項目が1項目程度以下・・・・・・・c

細別	工種	a	b	c	d
Ⅲ. 出来ばえ	溝蓋架設工事	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象	評価	[評価対象項目]
□	□	製品の据え付けが適切に行われガタツキ等が無い。
□	□	屈折部等における現場施工が適切に処理されている。
□	□	現場打ちコンクリートの仕上げが丁寧に処理されている。
□	□	製品の汚れ及び破損が無い。
□	□	グレーチング等が安全性を考慮して適切に配置されている。
□	□	既設構造物の補修等が適切に処理されている。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価6項目程度以上・・・・・・・a
※ 評価4項目程度以上・・・・・・・b
※ 評価3項目程度・・・・・・・・・・c
※ 評価2項目程度以下・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－43

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	下水道管更生工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	仕様書等で定められている品質管理が実施されている。
□	□	材料の品質規格証明書が整備されている。
□	□	当該補修工法の専門技術者が常駐し、品質管理が適切に行われている。
□	□	樹木根侵入、浸入水、破損、クラック、取り付け管の突き出しなど事前確認し、既設管内の洗浄および支障要因の除去等を行っている。
□	□	単独管において、管きょの流下能力を損なうようなシワ、弛み、剥離及び浸入水等がない。
□	□	複合管において、更生管の変形、更生管の浮上による縦断勾配の不陸等がない。
□	□	既設マンホールとの接続部分において、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等がない。
□	□	単独管の更生後の曲げ強度及び曲げ弾性率の試験結果が、設計時の保証値より上回っている。
□	□	複合管の更生後の充填材の圧縮強度試験結果が、規格値を上回っている。
□	□	取り付け管と本管との接続部の仕上げが適切に実施されている。
□	□	更生材に要求される保管ならび搬送・搬入が適切に実施されている。
□	□	複合管において、更生後の充填材が適切に充填されている。
□	□	構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。
□	□	監督職員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造について提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。
□	□	緊急的な作業において、迅速かつ適切に対応していることが確認できる。
□	□	施工後のメンテナンスに対する提言や修繕サイクル等を勘案した提案等を行っていることが確認できる。

※ 評価値が90%程度以上・・・・・・・・・a
※ 評価値が80%～90%程度・・・・・a′
※ 評価値が70%～80%程度・・・・・b
※ 評価値が60%～70%程度・・・・・b′
※ 評価値が60%程度未満・・・・・・・・c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

	Ⅲ．出来ばえ	下水道管更生工事	a	b	c	d	2／2ページ
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	小構造物等にも注意が払われている。
□	□	きめ細かな施工がなされている。
□	□	既設構造物とのすりつけが良い。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価3項目程度以上・・・・・・・・・a
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・・b
※ 評価1項目程度・・・・・・・・・・・・c
※ 評価項目なし・・・・・・・・・・・・・d

契約番号: 0

工事成績採点の考査項目別運用表(土木)

別紙 3－44

工 事 名: 0

[記入方法]:該当する項目の□に レ マークを記入する。

(検査員)

考査項目	細別	工種	a	a′	b	b′	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	下水道管修理工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	文書で指示を行った	修補指示を行った

対象	評価	[評価対象項目]
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・e
	□	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 上記該当項目があれば・・・・・・・・・・d
□	□	仕様書等で定められている品質管理が実施されている。
□	□	材料の品質規格証明書が整備されている。
□	□	当該補修工法の専門技術者が常駐し、品質管理が適切に行われている。
□	□	樹木根侵入、浸入水、破損、クラック、取り付け管の突き出しなど事前確認し、既設管内の
□	□	洗浄および支障要因の除去等を行っている。
□	□	本管補強において、管渠に影響を与えるシワ、弛み、浸入水等がない。
□	□	本管と取り付け管の接続部の浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等がない。
□	□	インバートは形状、勾配等が適正で表面仕上げが適切である。
□	□	既設マンホールとの接続部分において、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等がない。
□	□	更生材の補強後の曲げ強度及び曲げ弾性率の試験結果が、設計時の保証値より上回っている。
□	□	更生材に要求される保管ならび搬送・搬入が適切に実施されている。
□	□	構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。
□	□	監督職員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造について提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。
□	□	緊急的な作業において、迅速かつ適切に対応していることが確認できる。(維持工事)
□	□	施工後のメンテナンスに対する提言や修繕サイクル等を勘案した提案等を行っていることが確認できる。

※ 評価値が90%程度以上・・・・・・・・a
※ 評価値が80%～90%程度・・・・・a′
※ 評価値が70%～80%程度・・・・・b
※ 評価値が60%～70%程度・・・・・b′
※ 評価値が60%程度未満・・・・・・・・c

① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数／( )評価対象項目数×100
④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全てに該当してもc評価とする。

	Ⅲ．出来ばえ	下水道管修理工事	a	b	c	d	
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	

対象	評価	［評価対象項目］
□	□	小構造物等にも注意が払われている。
□	□	きめ細かな施工がなされている。
□	□	既設構造物とのすりつけが良い。
□	□	全体的な美観が良い。

※ 評価3項目程度以上・・・・・・・・・a
※ 評価2項目程度・・・・・・・・・・・・b
※ 評価1項目程度・・・・・・・・・・・・c
※ 評価項目なし・・・・・・・・・・・・・d